

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 栄養学
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 天久 克志
[授業の目的・概要] 食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解することを目的とする。	
[授業内容] <p>【第1回】 栄養素と食品の基礎知識</p> <p>【第2回】 身体の仕組み（消化）</p> <p>【第3回】 身体の仕組み（食物摂取と消化・吸収・代謝）</p> <p>【第4回】 身体の仕組み（身体組成）</p> <p>【第5回】 エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）</p> <p>【第6回】 エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）</p> <p>【第7回】 コンディショニングのための栄養（自己管理、内臓疲労、エネルギー補給）</p> <p>【第8回】 コンディショニングのための栄養（アスリートの食事、糖質の摂取、脂質の摂取）</p> <p>【第9回】 コンディショニングのための栄養（タンパク質の摂取、ビタミンの摂取、サプリメント）</p> <p>【第10回】 競技力向上のための栄養（水分摂取、試合での食事、減量、貧血と予防策）</p> <p>【第11回】 競技力向上のための栄養（身体づくりとカルシウム摂取量、女性の身体、ドーピング）</p> <p>【第12回】 世代別にみるスポーツ栄養の考え方と栄養サポート</p> <p>【第13回】 健康増進と栄養</p> <p>【第14回】 期末試験</p> <p>【第15回】 解答・解説</p>	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 基礎から学べるスポーツ栄養学、JATIトレーニング指導者テキスト(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 英語
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 安田 絹子
[授業の目的・概要] 将来的にそれぞれの専門分野における医事英語の知識が必要になったときに積極的に対応できることを目的とし、体系的かつ実践的な医事英語の習得を目指す。	
[授業内容] 【第1回】 Chapter1 Cell、Organ and System/ Chaper 2 Circulatory System 【第2回】 Chapter3 Blood System 【第3回】 Chapter4 Respiratory System 【第4回】 Chapter5 Digestive System1 【第5回】 Chapter5 Digestive System2 【第6回】 Chapter6 Urinary Systemu1 【第7回】 Chapter6 Urinary Systemu2 【第8回】 Chapter7 Nervous System1 【第9回】 Chapter7 Nervous System2 【第10回】 Chapter8 Musculoskeletal System1 【第11回】 Chapter8 Musculoskeletal System2 【第12回】 Chapter9 Skin and Sensory System 【第13回】 Chapter10 Reproductive System 【第14回】 Chapter11 Endocrine System 【第15回】 Final test & discoussion	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 「やさしい医学英語」医学書院 「ステッドマン医学大辞典」

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 基礎理科 I
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 中玉利 澄男
[授業の目的・概要] 本授業の目的は、これから人体の構造と機能を学ぶ上で必要となる生物学について基礎知識を身につけることにある。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 生体を構成する物質① 【第3回】 生体を構成する物質② 【第4回】 組織と器官① 【第5回】 組織と器官② 【第6回】 血管系・リンパ系 【第7回】 中間試験と解説 【第8回】 神経系① 【第9回】 神経系② 【第10回】 神経細胞と像法伝達 【第11回】 筋収縮の仕組み 【第12回】 内分泌系① 【第13回】 内分泌系② 【第14回】 ホルモンと神経系による調節 【第15回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] プリントを使用します。 解剖学、生理学の教科書

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 基礎理科Ⅱ
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 中玉利 澄男
[授業の目的・概要] 本授業の目的は、これから人体の構造と機能を学ぶ上で必要となる生物学について基礎知識を身につけることにある。	
[授業内容] <p>【第1回】 物質の構成（原子、分子、イオン、周期表）①</p> <p>【第2回】 物質の構成（原子、分子、イオン、周期表）②</p> <p>【第3回】 化学結合（イオン・共有・金属・水素結合）①</p> <p>【第4回】 化学結合（イオン・共有・金属・水素結合）②</p> <p>【第5回】 溶液とコロイド（溶解度、浸透圧、疎水・親水コロイド）①</p> <p>【第6回】 溶液とコロイド（溶解度、浸透圧、疎水・親水コロイド）②</p> <p>【第7回】 化学反応と酸・塩基（化学反応式、中和、酸性・アルカリ性とpH）①</p> <p>【第8回】 化学反応と酸・塩基（化学反応式、中和、酸性・アルカリ性とpH）②</p> <p>【第9回】 有機化合物の特徴と分類①</p> <p>【第10回】 有機化合物の特徴と分類②</p> <p>【第11回】 高分子（天然高分子、合成高分子）①</p> <p>【第12回】 高分子（天然高分子、合成高分子）②</p> <p>【第13回】 医薬部外品の化学（配合成分・禁止配合成分、トラブル、保管・取扱）①</p> <p>【第14回】 医薬部外品の化学（配合成分・禁止配合成分、トラブル、保管・取扱）①</p> <p>【第15回】 期末試験</p>	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 必要に応じ適宜資料を配布する。 「まるわかり！基礎化学」出版社 南山堂

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 心理学
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 當間 奏子
<p>[授業の目的・概要] 人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付ける。</p>	
<p>[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 発達心理（発育） 【第3回】 発達心理学（発育） 【第4回】 学習心理（運動心理） 【第5回】 学習心理（運動心理） 【第6回】 動機づけ 【第7回】 古典的条件づけ 【第8回】 社会心理（社会的認知・行動、チームワークおよびリーダーシップ） 【第9回】 健康心理（健康増進における心理と活用） 【第10回】 健康心理（健康増進における心理と活用） 【第11回】 スポーツ競技における心理 【第12回】 スポーツ競技における心理 【第13回】 メンタルトレーニング 【第14回】 臨床心理（カウンセリングマインド） 【第15回】 期末試験</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする</p>	<p>[使用テキスト・参考文献] やさしい心理学（水田恵三）、JATIトレーニング指導者テキスト（理論編）</p>

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整備師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 保健体育
[時間及び単位数] 60時間 4単位	[担当教員] 伊佐川 友紀
[授業の目的・概要] スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	
[授業内容] 【第1回】 体力学総論（体力の概念、トレーニング理論） 【第2回】 機能解剖（上肢） 【第3回】 機能解剖（脊柱と胸郭） 【第4回】 機能解剖（下肢） 【第5回】 運動指導の科学（体育教育法） 【第6回】 運動指導の科学（コーチング理論） 【第7回】 トレーニング指導者論（運動指導論・運動処方論・運動教授論） 【第8回】 トレーニング計画の立案 【第9回】 筋力トレーニングのプログラム作成 【第10回】 筋力トレーニングのプログラム作成 【第11回】 パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成 【第12回】 パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成 【第13回】 有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成 【第14回】 有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成 【第15回】 前期期末試験 【第16回】 スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成 【第17回】 スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成 【第18回】 ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論 【第19回】 ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論 【第20回】 特別な対象のトレーニングとプログラム 【第21回】 特別な対象のトレーニングとプログラム 【第22回】 傷害の受傷から復帰までのトレーニング 【第23回】 傷害の受傷から復帰までのトレーニング 【第24回】 トレーニング効果の測定と評価の実際 【第25回】 測定データの活用とフィードバック 【第26回】 トレーニングの運営 【第27回】 トレーニングの運営 【第28回】 運動指導のための情報収集と活用 【第29回】 運動指導のための情報収集と活用 【第30回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] トレーニング指導者テキスト

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 解剖学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 人体の正常な構造と機能を総合的に学修し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につけることにある。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 解剖学概説 【第3回】 人体の区分 【第4回】 骨格系総論、骨の役割ほか 【第5回】 脊柱 【第6回】 胸郭 【第7回】 上肢骨 【第8回】 上肢の関節 【第9回】 下肢骨 【第10回】 下肢の関節 【第11回】 頭蓋 【第12回】 頭蓋 【第13回】 筋系 骨格筋(起始・停止・作用ほか) 【第14回】 頭部の筋 【第15回】 頸部の筋 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 胸部の筋 【第19回】 呼吸運動 【第20回】 腹部の筋 【第21回】 背部の筋 【第22回】 上肢の筋 【第23回】 上肢の筋 【第24回】 下肢の筋 【第25回】 下肢の筋 【第26回】 内分泌系の働き 【第27回】 内分泌系の働き 【第28回】 内分泌系の働き 【第29回】 内分泌系の働き 【第30回】 神経の基礎 【第31回】 脳 【第32回】 脳 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 解剖学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 生理学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 中村 真理子
[授業の目的・概要] 人体の正常な構造と機能を総合的に学修し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につけることにある。	
[授業内容] 【第1回】 自己紹介、授業内容と進め方、成績のつけ方説明 【第2回】 生理学とは 【第3回】 細胞の機能的構造 【第4回】 拡散、浸透、ろ過 【第5回】 血液の役割、血液の組成 【第6回】 免疫機能 【第7回】 血液型、血液の凝固 【第8回】 心臓の機能 【第9回】 心臓の機能 【第10回】 心臓の機能 【第11回】 血管系 【第12回】 循環の調節 【第13回】 循環の調節 【第14回】 局所循環 【第15回】 脳脊髄液循環 【第16回】 消化器系の機能的構造 【第17回】 前期期末試験 【第18回】 解答・解説 【第19回】 消化器系の働き 【第20回】 消化器の運動とその調節 【第21回】 消化液の分泌機序 【第22回】 消化・吸収 【第23回】 消化管とホルモン 【第24回】 栄養と代謝 【第25回】 栄養と代謝 【第26回】 呼吸器の機能的構造 【第27回】 ガス交換 【第28回】 呼吸調節 【第29回】 呼吸の異常 【第30回】 体温とその調節 【第31回】 体温とその調節 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 社会保障制度
[時間及び単位数] 17時間 1単位	[担当教員] 文元 康二
[授業の目的・概要] 社会保障制度近年、医療保険制度改革を始め、柔道整復師を取り巻く環境やしぐみは大きく変化している。そのため社会保障制度のなかでも柔道整復師に必要な、皆保険制度、療養費の支給について学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明。国民皆保険制度 【第2回】 国民皆保険制度 【第3回】 国民皆保険制度 【第4回】 療養費の支給 柔道整復師の施術 沿革 【第5回】 療養費の支給 柔道整復師の施術 支給対象 【第6回】 療養費の支給 柔道整復師の施術 算定基準の実施上の留意事項 【第7回】 療養費の支給 柔道整復師の施術 算定基準の実施上の留意事項 【第8回】 試験 解答解説 【第9回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献]

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 公衆衛生学・衛生学
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 南出 千景
[授業の目的・概要] 医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 【第3回】 健康の概念 【第4回】 健康の概念 【第5回】 疾病予防と健康管理 【第6回】 感染症の予防 【第7回】 感染症の予防 【第8回】 消毒 【第9回】 消毒 【第10回】 環境保健 【第11回】 環境保健 【第12回】 環境保健 【第13回】 母子保健 【第14回】 学校保健 【第15回】 産業保健 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 産業保健 【第19回】 成人・老人保健 【第20回】 成人・老人保健 【第21回】 精神保健 【第22回】 生活環境・食品衛生活動 【第23回】 生活環境・食品衛生活動 【第24回】 生活環境・食品衛生活動 【第25回】 地域保健と国際保健 【第26回】 地域保健と国際保健 【第27回】 衛生行政と保健医療の制度 【第28回】 衛生行政と保健医療の制度 【第29回】 疫学 【第30回】 疫学 【第31回】 疫学 【第32回】 疫学 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 職業倫理
[時間及び単位数] 17時間 1単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 近年、医療従事者のモラルの低下が問われており、私達柔道整復師も質の低下が問題視されているそのため、柔道整復師の歴史、倫理を学び、現在の状況を分析し、医療従事者としてのあるべき姿を考える。職業倫理	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明。柔道整復とその対象とする学問領域 【第2回】 柔道整復師の起源と歴史 古代～近世 【第3回】 柔道整復師の起源と歴史 江戸時代 【第4回】 柔道整復師の起源と歴史 近代～現代 【第5回】 柔道整復師の起源と歴史 柔道と柔道整復術との歴史的関係 【第6回】 医療従事者の倫理 倫理とは 【第7回】 医療従事者の倫理 施術者としての倫理、柔道整復師倫理綱領 【第8回】 試験 【第9回】 解答解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献]

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔道実技 I
[時間及び単位数] 34時間 1単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明、柔道の歴史 【第2回】 横受身、後受身、横受身、前受身、前方回転受身 【第3回】 礼法（立礼・座礼） 打込 【第4回】 打込、固技、投技 【第5回】 打込、固技、投技 【第6回】 打込、固技、投技 【第7回】 浮落 【第8回】 背負投 【第9回】 肩車 【第10回】 浮腰 【第11回】 払腰 【第12回】 釣込腰 【第13回】 送足払 【第14回】 支釣込足 【第15回】 総復習 【第16回】 総復習 【第17回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献]

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 基礎柔道整復学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ。	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明</p> <p>【第2回】 骨の形態と機能</p> <p>【第3回】 骨損傷の分類</p> <p>【第4回】 骨折の症状</p> <p>【第5回】 骨折の合併症</p> <p>【第6回】 小児骨折</p> <p>【第7回】 高齢者骨折の特徴</p> <p>【第8回】 骨折の癒合日数</p> <p>【第9回】 骨の治癒課程</p> <p>【第10回】 骨折治癒に影響を与える因子</p> <p>【第11回】 骨折の治療法 整復法</p> <p>【第12回】 整復法の分類</p> <p>【第13回】 骨折の固定法</p> <p>【第14回】 固定法に用いる材料</p> <p>【第15回】 まとめ</p> <p>【第16回】 前期期末試験</p> <p>【第17回】 解答・解説</p> <p>【第18回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第19回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第20回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第21回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第22回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第23回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第24回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第25回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第26回】 関節可動域ならびに測定法</p> <p>【第27回】 徒手検査法の意義</p> <p>【第28回】 徒手検査法の注意</p> <p>【第29回】 痛みの科学と臨床 骨折の疼痛</p> <p>【第30回】 痛みの科学と臨床 脱臼の疼痛</p> <p>【第31回】 痛みの科学と臨床 軟部組織損傷の疼痛</p> <p>【第32回】 痛みの科学と臨床</p> <p>【第33回】 後期期末試験</p> <p>【第34回】 解答・解説</p>	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 基礎柔道整復学Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 関節の概要構造 【第3回】 関節の種類 【第4回】 関節の損傷：関節の構造と形態 【第5回】 関節の損傷：関節の構造と形態 【第6回】 関節の損傷：関節損傷の概要 【第7回】 関節の損傷；関節の概要 【第8回】 関節の損傷：関節構成組織損傷 【第9回】 関節の損傷：関節構成組織損傷 【第10回】 関節の損傷：脱臼 【第11回】 関節の損傷：脱臼 【第12回】 脱臼の整復法 【第13回】 脱臼の整復法 【第14回】 脱臼の固定法 【第15回】 脱臼の固定期間 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 額関節脱臼分類 【第19回】 額関節脱臼特徴 【第20回】 額関節整復・固定 【第21回】 額関節脱臼と鑑別すべき外傷 額関節症 【第22回】 額関節脱臼と鑑別すべき外傷 額関節症 【第23回】 胸部の骨折 胸骨骨折 【第24回】 胸部の骨折 胸骨骨折 【第25回】 胸部の骨折 胸骨骨折と鑑別を要する疾患 胸部の軟部組織損傷 【第26回】 胸部の骨折 胸骨骨折と鑑別を要する疾患 胸部の軟部組織損傷 【第27回】 脊椎部の損傷 頸椎骨折 【第28回】 脊椎部の損傷 胸椎・腰椎骨折 【第29回】 脊椎部の損傷 脱臼 【第30回】 脊椎部の損傷 軟部組織損傷 腰痛を除く 【第31回】 脊椎部の損傷 軟部組織損傷 【第32回】 脊椎部の損傷 軟部組織損傷 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とす	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔整復学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識習得を目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 柔道整復術及び柔道整復師の沿革 【第3回】 業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領 【第4回】 柔道整復師とは（概論）人体に加わる力 【第5回】 損傷に関する身体の基礎的状态 【第6回】 末梢神経の損傷：神経の構造と機能 【第7回】 末梢神経の損傷：神経損傷の概説 【第8回】 末梢神経の損傷：神経損傷の症状 【第9回】 血管系、リンパ系の損傷：血管系の構造と機能 【第10回】 血管系、リンパ系の損傷：四肢血管損傷の概説 【第11回】 血管系、リンパ系の損傷：血管損傷の症状 【第12回】 皮膚の損傷：皮膚の形態と機能 【第13回】 筋の損傷：筋の形態と機能 【第14回】 筋の損傷：筋損傷の概説 【第15回】 筋の損傷：筋損傷の症状 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 筋の損傷：筋損傷の予後 【第19回】 腱の損傷：腱の構造と機能 【第20回】 腱の損傷：腱損傷の概説 【第21回】 腱の損傷：腱損傷の症状 【第22回】 末梢神経の損傷の復習 【第23回】 末梢神経の損傷の復習 【第24回】 評価 【第25回】 評価 【第26回】 評価 【第27回】 血管系・リンパ系の損傷の復習 【第28回】 筋の損傷の復習 【第29回】 腱の損傷の復習 【第30回】 総復習 【第31回】 総復習 【第32回】 後期期末試験 【第33回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔整復学Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷を学ぶ。 頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 患者環境の把握 【第2回】 住宅環境に対する指導 【第3回】 就労環境・就学環境・スポーツに関する指導管理 【第4回】 就労環境・就学環境・スポーツに関する指導管理 【第5回】 就労環境・就学環境・スポーツに関する指導管理 【第6回】 整復に対する指導管理 【第7回】 整復に対する指導管理 【第8回】 整復に対する指導管理 【第9回】 固定に関する指導管理 【第10回】 固定後の指導管理 【第11回】 固定具の指導管理 【第12回】 後療法に関する指導管理 【第13回】 後療法に関する指導管理 【第14回】 自己管理に関する指導 【第15回】 総復習 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 捻挫・捻挫の概要 【第19回】 捻挫に合併する損傷 【第20回】 挫傷に合併する損傷 【第21回】 捻挫に対する柔道整復学の適応 【第22回】 捻挫に対する柔道整復学の適応 【第23回】 挫傷に対する柔道整復学の適応 【第24回】 挫傷に対する柔道整復学の適応 【第25回】 捻挫・挫傷の固定 【第26回】 捻挫・挫傷の固定 【第27回】 捻挫・挫傷の固定 【第28回】 顔面部骨折・頭蓋骨骨折 【第29回】 胸部の骨折 肋骨骨折 【第30回】 胸部の骨折 肋骨骨折 【第31回】 胸部の骨折 肋骨骨折 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 実技	[科目名] 基礎実技 I
[時間及び単位数] 68時間 2単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 固定の目的 【第3回】 固定材料の種類（硬性材料・軟性材料） 【第4回】 包帯の巻き方の基礎・巻軸帯の巻き戻し 【第5回】 環行帯・螺旋帯・蛇行帯 【第6回】 折転帯・亀甲帯・麦穂帯 【第7回】 冠名包帯：デゾー包帯 【第8回】 冠名包帯：デゾー包帯 【第9回】 冠名包帯：ヴェルポー包帯 【第10回】 冠名包帯：ヴェルポー包帯 【第11回】 冠名包帯：ジュール包帯 【第12回】 冠名包帯：ジュール包帯 【第13回】 部位別包帯：頭部・顔面部 【第14回】 部位別包帯：肩部 【第15回】 部位別包帯：肘部 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 部位別包帯：前腕部 【第19回】 部位別包帯：手関節部 【第20回】 部位別包帯：手指部 【第21回】 部位別包帯：股関節部 【第22回】 部位別包帯：大腿部 【第23回】 部位別包帯：膝関節部 【第24回】 部位別包帯：下腿部 【第25回】 部位別包帯：足関節部 【第26回】 部位別包帯：足指部 【第27回】 部位別包帯：胸部・背部 【第28回】 三角巾を使う 【第29回】 三角巾を使う 【第30回】 下腿の麦穂帯 【第31回】 下腿の麦穂帯 【第32回】 下腿の麦穂帯 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 実技	[科目名] 基礎実技Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 2単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、ギブスも行う。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 テーピングの種類 【第3回】 足部のテーピング 【第4回】 足部のテーピング 【第5回】 膝部のテーピング 【第6回】 膝部のテーピング 【第7回】 肘部のテーピング 【第8回】 肘部のテーピング 【第9回】 手関節のテーピング 【第10回】 手関節のテーピング 【第11回】 指部のテーピング 【第12回】 指部のテーピング 【第13回】 復習 【第14回】 復習 【第15回】 復習 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 キネシオテーピングの取り扱い 【第19回】 肩部・上腕部のテーピング 【第20回】 肩部・上腕部のテーピング 【第21回】 体幹・腰部のテーピング 【第22回】 体幹・腰部のテーピング 【第23回】 大腿・下腿のテーピング 【第24回】 大腿・下腿のテーピング 【第25回】 プライトンの作成 【第26回】 プライトンの作成 【第27回】 クラメルシーネの作成 【第28回】 クラメルシーネの作成 【第29回】 クラメルシーネの作成 【第30回】 アルフェンス作成 【第31回】 アルフェンス作成 【第32回】 アルフェンス作成 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80～100点 B: 70～79点 C: 60～69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 実習	[科目名] 臨床実習 I
[時間及び単位数] 45時間 1単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師は、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、ギプスも行う。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 頭部の体表解剖 【第3回】 頸部の体表解剖 【第4回】 胸部の体表解剖 【第5回】 腹部の体表解剖 【第6回】 背部の体表解剖 【第7回】 肩部の体表解剖 【第8回】 肘部の体表解剖 【第9回】 手関節部の体表解剖 【第10回】 指部の体表解剖 【第11回】 骨盤部の体表解剖 【第12回】 大腿部の体表解剖 【第13回】 下腿部の体表解剖 【第14回】 股関節部の体表解剖 【第15回】 膝関節部の体表解剖 【第16回】 足関節部の体表解剖 【第17回】 足部・足指の体表解剖 【第18回】 上肢の神経障害と部位 【第19回】 上肢の神経障害と部位 【第20回】 下肢の神経障害と部位 【第21回】 下肢の神経障害と部位 【第22回】 期末試験 【第23回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69点 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 1年次
[教育内容] 演習	[科目名] 総合演習Ⅰ
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	
[授業内容] 【第1回】 体力学総論、体力の概念 【第2回】 運動と栄養、健康維持と栄養 【第3回】 スポーツ栄養マネジメント、スポーツ選手の競技向上と栄養 【第4回】 運動と心理（スポーツ選手の競技力向上と心理） 【第5回】 運動と医学、生活習慣とその予防 【第6回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、スポーツ障害 【第7回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、足部の障害 【第8回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、下腿部の障害 【第9回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、大腿部の障害 【第10回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、腰部の障害 【第11回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、肩関節の障害 【第12回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、肘関節の障害 【第13回】 スポーツ選手の整形外科的損傷と予防、手関節の障害 【第14回】 期末試験 【第15回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] ・全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 解剖学Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 人体の正常な構造と機能を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。	
[授業内容] 【第1回】 脊髄 【第2回】 脊髄 【第3回】 末梢神経 【第4回】 末梢神経 【第5回】 感覚器 【第6回】 感覚器 【第7回】 体循環と肺循環 【第8回】 心臓の位置と形態 【第9回】 刺激伝導系 【第10回】 動脈系 【第11回】 動脈系 【第12回】 静脈系 【第13回】 静脈系 【第14回】 胎児循環 【第15回】 リンパ系 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 消化器の働き 【第19回】 消化器の働き 【第20回】 消化器の働き 【第21回】 呼吸器の働き 【第22回】 呼吸器の働き 【第23回】 呼吸器の働き 【第24回】 泌尿器の働き 【第25回】 泌尿器の働き 【第26回】 泌尿器の働き 【第27回】 男性生殖器の働き 【第28回】 男性生殖器の働き 【第29回】 女性生殖器の働き 【第30回】 女性生殖器の働き 【第31回】 まとめ 【第32回】 まとめ 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が <b>3分の2以上</b> を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 解剖学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 解剖学Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 野口 克彦
[授業の目的・概要] 柔道整復学の理論を正しく理解し根拠に基づいた実践を行うため、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているかを学ぶ。高齢者および競技者の生理的特徴・変化を含む。	
[授業内容] 【第1回】 自己紹介、授業内容と進め方、成績のつけ方、腎の構造と機能 【第2回】 水の再吸収と排泄 【第3回】 内分泌腺 【第4回】 甲状腺ホルモンの分泌調整 【第5回】 性染色体とその異常 【第6回】 体液の区分と水バランス 【第7回】 神経細胞の形態 【第8回】 興奮の伝導、活動電位 【第9回】 複合活動電位、興奮の伝達 【第10回】 神経系の成り立ち 【第11回】 内蔵機能の調節 【第12回】 内臓機能の視床下部による調節 【第13回】 いろいろな体性反射と中枢、脳幹を中枢とする運動機能 【第14回】 大脳皮質の機能分化、新皮質連合野の統合機能 【第15回】 感覚の種類、内臓感覚、聴覚、視覚、前庭感覚 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 高齢者の生理的特徴変化1 【第19回】 高齢者の生理的特徴変化2 【第20回】 高齢者の生理的特徴変化3 【第21回】 高齢者の生理的特徴変化4 【第22回】 高齢者の生理的特徴変化5 【第23回】 高齢者の生理的特徴変化6 【第24回】 高齢者の生理的特徴変化7 【第25回】 高齢者の生理的特徴変化8 【第26回】 競技者の生理的特徴変化1 【第27回】 競技者の生理的特徴変化2 【第28回】 競技者の生理的特徴変化3 【第29回】 競技者の生理的特徴変化4 【第30回】 競技者の生理的特徴変化5 【第31回】 競技者の生理的特徴変化6 【第32回】 競技者の生理的特徴変化7 【第33回】 高齢者の生理的特徴変化8 【第34回】 高齢者の生理的特徴変化・競技者の生理的特徴変化・期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 運動学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 宜野座 康秀
[授業の目的・概要] 運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 運動学の目的 【第3回】 運動の表し方 【第4回】 身体運動と力学(バイオメカニクスの基礎) 【第5回】 身体運動と力学(バイオメカニクスの基礎) 【第6回】 身体運動と力学(運動・トレーニング時のバイオメカニクス) 【第7回】 身体運動と力学(運動・トレーニング時のバイオメカニクス) 【第8回】 運動器の構造と機能 【第9回】 運動器の構造と機能 【第10回】 運動器の構造と機能 【第11回】 運動感覚 【第12回】 運動感覚 【第13回】 反射と随意運動 【第14回】 反射と随意運動 【第15回】 反射と随意運動 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 上肢帯の運動 【第19回】 上肢帯の運動 【第20回】 肩関節の運動 【第21回】 肘関節の運動 【第22回】 手関節と手の運動 【第23回】 手関節の手の運動 【第24回】 股関節の運動 【第25回】 膝関節の運動 【第26回】 足関節の足部の運動 【第27回】 足関節と足部の運動 【第28回】 足関節と足部の運動 【第29回】 体幹と脊柱の運動 【第30回】 頚椎の運動 【第31回】 胸椎と胸郭の運動 【第32回】 腰椎、仙椎および骨盤の運動 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 運動学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 病理学概論
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 南出 千景
[授業の目的・概要] 病理学の概略として1. 病理学の意義、2. 疾病の一般、3. 病因、4. 疾病各論についての講義を行い、学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように学習することを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 病理学の意義 【第3回】 疾病の一般 【第4回】 内因 【第5回】 外因 【第6回】 外因 【第7回】 外因 【第8回】 萎縮 【第9回】 変性 【第10回】 壊死 【第11回】 死 【第12回】 血液の循環障害 【第13回】 血液の循環障害 【第14回】 血液の循環障害 【第15回】 リンパ液の循環障害 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 肥大 【第19回】 化生 【第20回】 移植 【第21回】 炎症の一般 【第22回】 炎症の分類 【第23回】 免疫の仕組み 【第24回】 免疫不全 【第25回】 自己免疫異常 【第26回】 アレルギー 【第27回】 腫瘍 【第28回】 腫瘍 【第29回】 腫瘍の分類 【第30回】 先天性異常 【第31回】 運動器の病理 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 一般臨床医学 I
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 富田 秀司
[授業の目的・概要] 一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 診察の意義、進め方 【第3回】 医療面接 【第4回】 視診：指針の意義と方法 【第5回】 視診：異常運動 【第6回】 視診：頸部の視診 【第7回】 打診 【第8回】 聴診 【第9回】 生命徴候 【第10回】 感覚検査 【第11回】 反射検査 【第12回】 代表的な臨床症状 【第13回】 代表的な臨床症状 【第14回】 検査法 【第15回】 呼吸器疾患 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 呼吸器疾患 【第19回】 循環器疾患 【第20回】 循環器疾患 【第21回】 消化器疾患 【第22回】 代謝疾患 【第23回】 内分泌疾患 【第24回】 血液・造血器疾患 【第25回】 腎・尿路疾患 【第26回】 神経疾患 【第27回】 感染症 【第28回】 リウマチ・膠原病・アレルギー 【第29回】 環境要因による疾患 【第30回】 生活習慣病とその予防 【第31回】 生活習慣病とその予防 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 整形外科学
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 関矢 政之
[授業の目的・概要] 運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 運動器の基礎知識 【第2回】 整形外科診察法 【第3回】 整形外科検査法・整形外科的治療 【第4回】 骨・関節損傷総論 【第5回】 リハビリテーション総論・スポーツ整形外科総論（外傷と障害） 【第6回】 疾患別各論 感染性疾患 【第7回】 疾患別各論 軟部腫瘍・軟部疾患 【第8回】 疾患別各論 全身性の骨・骨端症 【第9回】 疾患別各論 神経麻痺と絞扼性神経障害 【第10回】 身体部位別各論 頸部・胸部 【第11回】 身体部位別各論 肩甲骨帯および上肢の疾患 【第12回】 身体部位別各論 上腕・肘関節・前腕・手・手指 【第13回】 身体部位別各論 骨盤・股関節 【第14回】 身体部位別各論 大腿・膝関節 【第15回】 身体部位別各論 下腿・足関節・足・足趾 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 整形外科学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 外科学概論
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 富田 秀司
[授業の目的・概要] 外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける。	
[授業内容] 【第1回】 損傷の分類 【第2回】 創傷の処置と感染予防・熱傷 原因と分類 【第3回】 炎症・外科感染症 【第4回】 腫瘍 概念・悪性腫瘍の種類 【第5回】 症状・診断・治療 【第6回】 循環血液量異常によるショック 【第7回】 輸血・一般輸液・高カロリー輸液 【第8回】 手術の準備・主な消毒薬と特徴 【第9回】 麻酔 概要・全身麻酔の手技 【第10回】 移植の用語 【第11回】 出血と止血 【第12回】 救急処置（止血・心肺蘇生法の手順） 【第13回】 脳神経外科疾患・甲状腺・頸部疾患 【第14回】 心臓・脈管疾患 【第15回】 腹部外科疾患・乳腺疾患 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 整形外科学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] リハビリテーション医学
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 関矢 政之
[授業の目的・概要] 患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならないリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す。	
[授業内容] <p>【第1回】 リハビリテーション医学の基礎医学 運動学と機能解剖</p> <p>【第2回】 リハビリテーション医学の基礎医学 障害学・治療学</p> <p>【第3回】 リハビリテーション医学の評価と診断 患者のとらえ方・身体計測</p> <p>【第4回】 リハビリテーション医学の評価と診断 中枢性運動障害の評価法</p> <p>【第5回】 リハビリテーション医学の評価と診断 協調性テスト・日常生活動作の評価</p> <p>【第6回】 リハビリテーションの治療 理学療法・補装具・言語治療</p> <p>【第7回】 リハビリテーションの実際 脳卒中</p> <p>【第8回】 リハビリテーションの実際 脊髄損傷</p> <p>【第9回】 リハビリテーションの実際 小児疾患</p> <p>【第10回】 リハビリテーションの実際 切断・末梢神経損傷</p> <p>【第11回】 リハビリテーションの実際 関節リウマチ・整形外科疾患</p> <p>【第12回】 リハビリテーションの実際 心疾患・呼吸器疾患</p> <p>【第13回】 リハビリテーションの実際 老人のリハビリテーション</p> <p>【第14回】 リハビリテーションと福祉</p> <p>【第15回】 リハビリテーションの実際 アスレティックリハビリテーション</p> <p>【第16回】 後期期末試験</p> <p>【第17回】 解答・解説</p>	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 プリントなど

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整備師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔道実技Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 2単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整備師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。	
[授業内容] 【第1回】 内股 【第2回】 浮落 投込 【第3回】 背負投 投込 【第4回】 肩車 投込 【第5回】 浮腰 投込 【第6回】 払腰 投込 【第7回】 釣込腰 投込 【第8回】 送足払 投込 【第9回】 支釣込足 投込 【第10回】 内股 投込 【第11回】 復習 【第12回】 復習 【第13回】 約束乱取 【第14回】 約束乱取 【第15回】 袈裟固めなど 【第16回】 袈裟固めなど 【第17回】 前期期末試験 【第18回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第19回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第20回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第21回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第22回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第23回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第24回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第25回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第26回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第27回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ） 【第28回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ） 【第29回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ） 【第30回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第31回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第32回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第33回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第34回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献]

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔道整復学Ⅲ
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 上肢骨折：鎖骨骨折 【第3回】 上肢骨折：鎖骨骨折 【第4回】 上肢骨折：鎖骨骨折 【第5回】 上肢骨折：肩甲骨骨折 【第6回】 上肢骨折：上腕骨近位端部骨折 【第7回】 上肢骨折：上腕骨近位端部骨折 【第8回】 上肢骨折：上腕骨近位端部骨折 【第9回】 上肢骨折：上腕骨骨幹部骨折 【第10回】 上肢骨折：上腕骨骨幹部骨折 【第11回】 上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折 【第12回】 上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折 【第13回】 上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折 【第14回】 上肢骨折：前腕骨近位端部骨折 【第15回】 上肢骨折：前腕骨近位端部骨折 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折 【第19回】 上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折 【第20回】 上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折 【第21回】 上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折 【第22回】 上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折 【第23回】 上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折 【第24回】 上肢骨折：手根骨骨折 【第25回】 上肢骨折：手根骨骨折 【第26回】 上肢骨折：中手骨骨折 【第27回】 上肢骨折：中手骨骨折 【第28回】 上肢骨折：指骨骨折 【第29回】 上肢骨折：指骨骨折 【第30回】 上肢骨折：マレットフィンガー 【第31回】 上肢骨折：マレットフィンガー 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔整IV
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 下肢骨折：骨盤骨単独骨折 【第3回】 下肢骨折：骨盤骨単独骨折 【第4回】 下肢骨折：骨盤骨輪骨折 【第5回】 下肢骨折：骨盤骨輪骨折 【第6回】 下肢骨折：大腿骨近位端部骨折 【第7回】 下肢骨折：大腿骨近位端部骨折 【第8回】 下肢骨折：大腿骨近位端部骨折 【第9回】 下肢骨折：大腿骨骨幹部骨折 【第10回】 下肢骨折：大腿骨骨幹部骨折 【第11回】 下肢骨折：大腿骨骨幹部骨折 【第12回】 下肢骨折：大腿骨遠位端部骨折 【第13回】 下肢骨折：大腿骨遠位端部骨折 【第14回】 下肢骨折：大腿骨遠位端部骨折 【第15回】 まとめ 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 下肢骨折：膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨 【第19回】 下肢骨折：下腿骨近位端部骨折 【第20回】 下肢骨折：下腿骨近位端部骨折 【第21回】 下肢骨折：下腿骨骨幹部骨折 【第22回】 下肢骨折：下腿骨骨幹部骨折 【第23回】 下肢骨折：下腿骨遠位端部骨折 【第24回】 下肢骨折：下腿骨遠位端部骨折 【第25回】 下肢骨折：足関節の脱臼骨折 【第26回】 下肢骨折：足関節の脱臼骨折 【第27回】 下肢骨折：足関節の脱臼骨折 【第28回】 下肢骨折：足根骨骨折 【第29回】 下肢骨折：足根骨骨折 【第30回】 下肢骨折：中足骨骨折 【第31回】 下肢骨折：中足骨骨折 【第32回】 下肢骨折：足指骨骨折 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技 I
[時間及び単位数] 68時間2単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 脱臼：顎関節脱臼 【第3回】 脱臼：顎関節脱臼 【第4回】 脱臼：頸椎脱臼 【第5回】 脱臼：胸椎脱臼 【第6回】 脱臼：胸鎖関節脱臼 【第7回】 脱臼：肩鎖関節脱臼 【第8回】 脱臼：肩鎖関節脱臼 【第9回】 脱臼：肩関節前方脱臼 【第10回】 脱臼：肩関節前方脱臼 【第11回】 脱臼：肩関節後方脱臼 【第12回】 脱臼：前腕両骨脱臼 【第13回】 脱臼：前腕両骨脱臼 【第14回】 脱臼：橈骨頭単独脱臼 【第15回】 脱臼：遠位橈尺関節脱臼 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 脱臼：月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼 【第19回】 脱臼：第1指中手指節関節脱臼 【第20回】 脱臼：近位指節間関節脱臼 【第21回】 脱臼：股関節後方脱臼 【第22回】 脱臼：股関節後方脱臼 【第23回】 脱臼：股関節前方脱臼・発育性股関節脱臼 【第24回】 脱臼：膝蓋骨側方脱臼 【第25回】 脱臼：膝蓋骨側方脱臼 【第26回】 脱臼：外傷性膝関節脱臼 【第27回】 脱臼：ショパール・リスフラン関節脱臼 【第28回】 脱臼：中足、足指部の脱臼 【第29回】 脱臼：脱臼まとめ 【第30回】 脱臼：脱臼まとめ 【第31回】 脱臼：脱臼まとめ 【第32回】 脱臼：脱臼まとめ 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技Ⅱ
[時間及び単位数] 68時間 2単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 軟部組織損傷：外傷性顎関節損傷 【第3回】 軟部組織損傷：頭部・顔面部打撲 【第4回】 軟部組織損傷：顎関節症 【第5回】 軟部組織損傷：胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲 【第6回】 軟部組織損傷：頸部捻挫 【第7回】 軟部組織損傷：胸背部の軟部組織損傷 【第8回】 軟部組織損傷：腰部の軟部組織損傷 【第9回】 軟部組織損傷：腰部の軟部組織損傷 【第10回】 軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷 【第11回】 軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷 【第12回】 軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷 【第13回】 軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷 【第14回】 軟部組織損傷：肘部および前腕部の障害 【第15回】 軟部組織損傷：肘部および前腕部の障害 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 軟部組織損傷：手関節および手指部の障害 【第19回】 軟部組織損傷：手関節および手指部の障害 【第20回】 軟部組織損傷：手関節および手指部の障害 【第21回】 軟部組織損傷：手関節および手指部の障害 【第22回】 肩部の検査法 【第23回】 上腕部の検査法 【第24回】 肘部の検査法 【第25回】 手関節の検査法 【第26回】 指部の検査法 【第27回】 肩部の治療法 【第28回】 上腕部の治療法 【第29回】 肘部の治療法 【第30回】 手関節の治療法 【第31回】 指部の治療法 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技Ⅲ
[時間及び単位数] 68時間2単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得られるような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第1回】 軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷 【第2回】 軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷 【第3回】 軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷 【第4回】 軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷 【第5回】 軟部組織損傷：大腿部の軟部組織損傷 【第6回】 軟部組織損傷：大腿部の軟部組織損傷 【第7回】 軟部組織損傷：膝関節部の軟部組織損傷 【第8回】 軟部組織損傷：膝関節部の軟部組織損傷 【第9回】 軟部組織損傷：膝関節部の軟部組織損傷 【第10回】 軟部組織損傷：膝関節部の軟部組織損傷 【第11回】 軟部組織損傷：膝関節部の軟部組織損傷 【第12回】 軟部組織損傷：下腿部の軟部組織損傷 【第13回】 軟部組織損傷：下腿部の軟部組織損傷 【第14回】 軟部組織損傷：下腿部の軟部組織損傷 【第15回】 総復習 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷 【第19回】 軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷 【第20回】 軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷 【第21回】 軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷 【第22回】 股関節部の検査法 【第23回】 大腿部の検査法 【第24回】 膝関節部の検査法 【第25回】 下腿部の検査法 【第26回】 足部の検査法 【第27回】 股関節部の治療法 【第28回】 大腿部の治療法 【第29回】 膝関節部の治療法 【第30回】 下腿部の治療法 【第31回】 足部の治療法 【第32回】 総復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 実習	[科目名] 臨床実習Ⅱ
[時間及び単位数] 45時間 1単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 付属接骨院での見学実習 【第3回】 付属接骨院での見学実習 【第4回】 付属接骨院での見学実習 【第5回】 付属接骨院での見学実習 【第6回】 付属接骨院での見学実習 【第7回】 付属接骨院での見学実習 【第8回】 付属接骨院での見学実習 【第9回】 付属接骨院での見学実習 【第10回】 付属接骨院での見学実習 【第11回】 付属接骨院での見学実習 【第12回】 付属接骨院での見学実習 【第13回】 付属接骨院での見学実習 【第14回】 付属接骨院での見学実習 【第15回】 付属接骨院での見学実習 【第16回】 付属接骨院での見学実習 【第17回】 付属接骨院での見学実習 【第18回】 付属接骨院での見学実習 【第19回】 付属接骨院での見学実習 【第20回】 付属接骨院での見学実習 【第21回】 付属接骨院での見学実習 【第22回】 期末試験 【第23回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 2年次
[教育内容] 演習	[科目名] 総合演習Ⅱ
[時間及び単位数] 60時間 4単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 トレーニングの運営と情報活用 【第2回】 トレーニングの運営と情報活用 【第3回】 運動指導のための情報収集と活用 【第4回】 運動指導のための情報収集と活用 【第5回】 筋力トレーニングの実際 【第6回】 筋力トレーニングの実際 【第7回】 筋力トレーニングの実際 【第8回】 筋力トレーニングの実際 【第9回】 パワー向上トレーニングの実際 【第10回】 パワー向上トレーニングの実際 【第11回】 パワー向上トレーニングの実際 【第12回】 パワー向上トレーニングの実際 【第13回】 パワー向上トレーニングの実際 【第14回】 パワー向上トレーニングの実際 【第15回】 前期期末試験 【第16回】 持力向上トレーニングの実際 【第17回】 持力向上トレーニングの実際 【第18回】 持力向上トレーニングの実際 【第19回】 スピード向上トレーニングの実際 【第20回】 スピード向上トレーニングの実際 【第21回】 スピード向上トレーニングの実際 【第22回】 スピード向上トレーニングの実際 【第23回】 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際 【第24回】 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際 【第25回】 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際 【第26回】 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際 【第27回】 総復習 【第28回】 総復習 【第29回】 後期期末試験 【第30回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] JATIトレーニング指導者テキスト(理論・実践)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 解剖学Ⅲ
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 1・2年次に学んだ解剖学の内容について反復学習することで、より理解を深めることを目的とする。単に暗記に留まらずに、人体の個々の形態、それらの関係を理解し、解剖学的思考を養い、器官と構造の相互関係、形態と機能の相互関係などについて臨床において必要な知識の習得を図る。	
[授業内容] 【第1回】 自己紹介、授業内容と進め方について、成績のつけ方の説明 【第2回】 細胞、人体の発生、器官の定義、区分 【第3回】 骨格系（上肢） 【第4回】 骨格系（下肢） 【第5回】 骨格系（頭部・体幹） 【第6回】 筋系（上肢） 【第7回】 筋系（下肢） 【第8回】 筋系（頭部・体幹） 【第9回】 体循環と肺循環、位置と形態、刺激伝道系、動静脈、胎児循環、リンパ 【第10回】 体循環と肺循環、位置と形態、刺激伝道系、動静脈、胎児循環、リンパ 【第11回】 消化管の働き 【第12回】 消化管の働き 【第13回】 消化管の働き 【第14回】 呼吸器の働き 【第15回】 呼吸器の働き 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 解剖学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 生理学Ⅲ
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 南出 千景
[授業の目的・概要] 1・2年次に学んだ生理学Ⅰ・Ⅱを正しく理解し、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているか、また、どのように統合されているかを再確認する。	
[授業内容] 【第1回】 血液の生理 【第2回】 心臓の機能 【第3回】 循環の腸節 【第4回】 消化器系の働き 【第5回】 消化・吸収 【第6回】 栄養と代謝 【第7回】 栄養と代謝 【第8回】 呼吸機能的構造 【第9回】 呼吸調節・異常 【第10回】 体温調節 【第11回】 尿の生成・排出 【第12回】 内分泌 【第13回】 生殖 【第14回】 神経の基本機能 【第15回】 神経の基本機能 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 運動学Ⅱ
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 宜野座 康秀
[授業の目的・概要] 運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 顔面および頭部の運動 【第2回】 顔面および頭部の運動 【第3回】 姿勢の分類 【第4回】 立位姿勢の制御 【第5回】 歩行周期 【第6回】 歩行のエネルギー代謝 【第7回】 歩行のエネルギー代謝 【第8回】 異常歩行 【第9回】 バイオメカニクスの基礎理論 【第10回】 スポーツおよびトレーニング動作のバイオメカニクス 【第11回】 神経組織の成熟 【第12回】 歩行運動 【第13回】 歩行運動 【第14回】 運動学習 【第15回】 総復習 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 運動学

## 授 業 概 要

<p>[学科名]</p> <p style="text-align: center;">柔道整復師学科学科</p>	<p>[実施年次及び期間]</p> <p style="text-align: center;">3年次</p>
<p>[教育内容]</p> <p style="text-align: center;">講義</p>	<p>[科目名]</p> <p style="text-align: center;">一般臨床医学Ⅱ</p>
<p>[時間及び単位数]</p> <p style="text-align: center;">34時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p style="text-align: center;">富田 秀司</p>
<p>[授業の目的・概要]</p> <p>一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。</p>	
<p>[授業内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 医療面接</li> <li>【第2回】 視診・打診</li> <li>【第3回】 聴診・腹診</li> <li>【第4回】 検査法</li> <li>【第5回】 呼吸器疾患</li> <li>【第6回】 循環器疾患</li> <li>【第7回】 消化器疾患</li> <li>【第8回】 代謝疾患</li> <li>【第9回】 内分泌疾患</li> <li>【第10回】 血液・造血器疾患</li> <li>【第11回】 腎・尿路疾患</li> <li>【第12回】 神経疾患</li> <li>【第13回】 感染症</li> <li>【第14回】 リウマチ・膠原病・アレルギー</li> <li>【第15回】 生活習慣病とその予防</li> <li>【第16回】 期末試験</li> <li>【第17回】 解答・解説</li> </ul>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学</p>

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 柔道整復術の適応
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 富田 秀司
[授業の目的・概要] 柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることが出来るようにすることを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】 柔道整復術の適応 医療面接にて 【第2回】 柔道整復術の適応 医療面接にて 【第3回】 柔道整復術の適応 診察にて 【第4回】 柔道整復術の適応 診察にて 【第5回】 柔道整復術の適応 診察にて 【第6回】 柔道整復術の適応 画像診断にて 【第7回】 柔道整復術の適応 画像診断にて 【第8回】 柔道整復術の適応 画像診断にて 【第9回】 柔道整復術の適応 【第10回】 柔道整復術の適応 【第11回】 柔道整復術の適応 【第12回】 柔道整復術の適応 【第13回】 柔道整復術の適応 【第14回】 期末試験 【第15回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 公衆衛生学・衛生学
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 南出 千景
[授業の目的・概要] 医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 【第3回】 健康の概念 【第4回】 健康の概念 【第5回】 疾病予防と健康管理 【第6回】 感染症の予防 【第7回】 感染症の予防 【第8回】 消毒 【第9回】 消毒 【第10回】 環境保健 【第11回】 環境保健 【第12回】 環境保健 【第13回】 母子保健 【第14回】 学校保健 【第15回】 産業保健 【第16回】 産業保健 【第17回】 成人・老人保健 【第18回】 成人・老人保健 【第19回】 精神保健 【第20回】 生活環境・食品衛生活動 【第21回】 生活環境・食品衛生活動 【第22回】 生活環境・食品衛生活動 【第23回】 地域保健と国際保健 【第24回】 地域保健と国際保健 【第25回】 衛生行政と保健医療の制度 【第26回】 衛生行政と保健医療の制度 【第27回】 疫学 【第28回】 疫学 【第29回】 疫学 【第30回】 まとめ 【第31回】 まとめ 【第32回】 まとめ 【第33回】 期末試験 【第34回】 解答および解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔道実技Ⅲ
[時間及び単位数] 45時間 1単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 受身・礼法 【第3回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第4回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第5回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第6回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第7回】 受身・礼法・投の形（手わざ） 【第8回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第9回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第10回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第11回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第12回】 受身・礼法・投の形（腰わざ） 【第13回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第14回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第15回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第16回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第17回】 受身・礼法・投の形（足わざ） 【第18回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ） 【第19回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第20回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第21回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第22回】 受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取 【第23回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献]

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 関係法規
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 序論 法の意義 【第3回】 柔道整復師法とその関連内容 総則 【第4回】 柔道整復師法とその関連内容 免許 【第5回】 柔道整復師法とその関連内容 免許 【第6回】 柔道整復師法とその関連内容 免許 【第7回】 柔道整復師法とその関連内容 柔道整復師国家試験 【第8回】 柔道整復師法とその関連内容 業務 【第9回】 柔道整復師法とその関連内容 業務 【第10回】 柔道整復師法とその関連内容 施術所 【第11回】 柔道整復師法とその関連内容 雑則 【第12回】 柔道整復師法とその関連内容 罰則 【第13回】 柔道整復師法とその関連内容 罰則 【第14回】 柔道整復師法とその関連内容 指定登録機関及び指定試験機関 【第15回】 柔道整復師法とその関連内容 附則 【第16回】 柔道整復師法とその関連内容 附則 【第17回】 中間試験 【第18回】 関係法規 医療従事者の資格法 【第19回】 関係法規 医療従事者の資格法 【第20回】 関係法規 医療従事者の資格法 【第21回】 関係法規 医療法 【第22回】 関係法規 医療法 【第23回】 関係法規 医療法 【第24回】 関係法規 社会保険関係法規 【第25回】 関係法規 社会保険関係法規 【第26回】 関係法規 社会福祉関係法規 【第27回】 関係法規 社会福祉関係法規 【第28回】 関係法規 社会福祉関係法規 【第29回】 関係法規 その他の関係法規 【第30回】 関係法規 その他の関係法規 【第31回】 関係法規 その他の関係法規 【第32回】 関係法規 その他の関係法規 【第33回】 関係法規 その他の関係法規 【第34回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 関係法規

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 基礎柔道整復学Ⅲ
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 1・2年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。 外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。	
[授業内容] 【第1回】 骨折の保存療法の経過および治癒の判定1 【第2回】 骨折の保存療法の経過および治癒の判定2 【第3回】 骨折の保存療法の経過および治癒の判定3 【第4回】 脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定1 【第5回】 脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定2 【第6回】 脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定3 【第7回】 捻挫の保存療法の経過および治癒の判定 【第8回】 挫傷の保存療法の経過および治癒の判定 【第9回】 骨の損傷：骨折の合併症 【第10回】 骨の損傷：小児骨折・高齢者骨折の特徴 【第11回】 骨の損傷：骨折の癒合日数、骨折の予後 【第12回】 関節の損傷：関節の構造と形態 【第13回】 関節の損傷：関節損傷の概説 【第14回】 関節の損傷：関節構成組織損傷 【第15回】 関節の損傷：脱臼 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] プリント配布

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 総合基礎柔道整復学
[時間及び単位数] 34時間 2単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 最も多く遭遇する骨折や脱臼軟部組織損傷を学ぶ	
[授業内容] 【第1回】 骨損・脱臼・軟損・包帯・後療法 【第2回】 頭部・顔面骨折、胸部骨折、脊椎骨折 【第3回】 顎関節脱臼、頭部・顔面軟損、脊椎軟損 【第4回】 鎖骨骨折、肩甲骨骨折 【第5回】 上腕骨骨折、前腕骨骨折 【第6回】 手根骨・手指骨折 【第7回】 肩関節脱臼、肘関節脱臼 【第8回】 手根骨脱臼、中手骨・手指脱臼 【第9回】 上肢軟部組織損傷 【第10回】 骨盤骨骨折、大腿骨骨折、膝蓋骨骨折 【第11回】 下腿骨骨折、足根骨骨折、中足骨・足指骨折 【第12回】 股関節脱臼、膝部脱臼、足部・足根骨・足指脱臼 【第13回】 股部軟部組織損傷、足部軟部組織損傷 【第14回】 下腿部軟部組織損傷、足部軟部組織損傷 【第15回】 総復習 【第16回】 期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] プリント配布

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔整復学V
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 文元 康二 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 骨折・脱臼・捻挫・打撲の治療の参考にするための超音波画像を学ぶ。 柔道整復術適応の臨床的判定・医療画像の理解を含む。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス（超音波画像とは）、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 法律上の問題 【第3回】 X線、MRI、超音波診断装置の読影方法 【第4回】 上肢の機能解剖 【第5回】 法律上の問題 【第6回】 前腕の超音波観察 【第7回】 上肢の機能解剖 【第8回】 手指の超音波観察 【第9回】 前腕の超音波観察 【第10回】 上腕の超音波観察 【第11回】 肩～肩甲骨部の機能解剖 【第12回】 肩部の超音波観察 【第13回】 手指の超音波観察 【第14回】 胸部の超音波観察 【第15回】 足関節の機能解剖 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 足関節の機能解剖 【第19回】 足関節の超音波観察 【第20回】 膝部の機能解剖 【第21回】 足関節の機能解剖 【第22回】 膝部の超音波観察 【第23回】 膝部の機能解剖 【第24回】 股関節の超音波観察 【第25回】 体幹・頭蓋の解剖と骨折 【第26回】 上肢の解剖と骨折 【第27回】 上肢の解剖と骨折 【第28回】 下肢の解剖と骨折 【第29回】 下肢の解剖と骨折 【第30回】 肩関節の脱臼復習 【第31回】 肩関節の脱臼復習 【第32回】 肩関節の脱臼復習 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 講義	[科目名] 臨床柔道整復学VI
[時間及び単位数] 68時間 4単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が施術所で使用する物理療法機器等の取り扱いを学び、安全に人体に使用できるようになる。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 電気療法機器の取り扱い方 【第3回】 電気療法機器の取り扱い方 【第4回】 電気療法機器の取り扱い方 【第5回】 寒冷療法機器の取り扱い方 【第6回】 寒冷療法機器の取り扱い方 【第7回】 寒冷療法機器の取り扱い方 【第8回】 光線療法機器の取り扱い方 【第9回】 光線療法機器の取り扱い方 【第10回】 光線療法機器の取り扱い方 【第11回】 温熱療法機器の取り扱い方 【第12回】 温熱療法機器の取り扱い方 【第13回】 温熱療法機器の取り扱い方 【第14回】 脊椎牽引療法機器の取り扱い方 【第15回】 脊椎牽引療法機器の取り扱い方 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 手技療法 軽擦法 【第19回】 手技療法 強擦法 【第20回】 手技療法 揉捏法 【第21回】 手技療法 叩打法 【第22回】 手技療法 振戦法 【第23回】 手技療法 肩にたいする施術法 【第24回】 手技療法 腰に対する施術法 【第25回】 手技療法 背部に対する施術法 【第26回】 手技療法 大腿部に対する施術法 【第27回】 手技療法 下腿部に対する施術 【第28回】 手技療法 足部に対する 【第29回】 手技療法 全般 【第30回】 手技療法 全般 【第31回】 手技療法 全般 【第32回】 手技療法 全般 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編、実技編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技IV
[時間及び単位数] 68時間 2単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 高齢者の外傷予防、競技者の外傷予防を学ぶ、またこの教科に臨床実習前試験を追加する。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 足部の障害 【第3回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 大腿部・下腿部の障害 【第4回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 腰部の障害 【第5回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 肩関節の障害 【第6回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 肘関節の障害 【第7回】 高齢者の整形外科的損傷と予防 手関節の障害 【第8回】 競技者の整形外科的損傷と予防、スポーツ障害 【第9回】 競技者の整形外科的損傷と予防、足部の障害 【第10回】 競技者の整形外科的損傷と予防、下腿部の障害 【第11回】 競技者の整形外科的損傷と予防、大腿部の障害 【第12回】 競技者の整形外科的損傷と予防、腰部の障害 【第13回】 競技者の整形外科的損傷と予防、肩関節の障害 【第14回】 競技者の整形外科的損傷と予防、肘関節の障害 【第15回】 競技者の整形外科的損傷と予防、手関節の障害 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説 【第18回】 下肢の脱臼 復習 【第19回】 股関節脱臼 復習 【第20回】 膝関節脱臼 復習 【第21回】 膝蓋骨脱臼 復習 【第22回】 距腿関節脱臼 復習 【第23回】 リスフラン関節脱臼復習 【第24回】 ショパール関節脱臼復習 【第25回】 足指脱臼復習 【第26回】 肘関節脱臼復習 【第27回】 肘関節脱臼 復習 【第28回】 手関節部脱臼復習 【第29回】 手関節部脱臼復習 【第30回】 手指部脱臼復習 【第31回】 臨床実習前試験 【第32回】 臨床実習前試験 【第33回】 後期期末試験 【第34回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA:80~100点 B:70~79点 C:60~69 D:59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編、実技編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技V
[時間及び単位数] 34時間 1単位	[担当教員] 柳樂 聡治郎 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第1回】 鎖骨骨折 【第2回】 上腕骨外科頸骨折、肩関節脱臼 【第3回】 上腕骨顆上骨折、肘関節脱臼 【第4回】 コーレス骨折 【第5回】 舟状骨骨折 【第6回】 手指骨折 【第7回】 肘内障 【第8回】 肩脱臼、肩鎖関節脱臼 【第9回】 膝蓋骨脱臼 【第10回】 大腿骨頸部骨折 【第11回】 中足骨骨折 【第12回】 肩部軟部組織損傷 【第13回】 膝部軟部組織損傷 【第14回】 下腿軟部組織損傷 【第15回】 足部軟部組織損傷 【第16回】 前期期末試験 【第17回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編、実技編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技VI
[時間及び単位数] 102時間 3単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第1回】 鎖骨骨折概説と特徴 【第2回】 鎖骨骨折整復 【第3回】 鎖骨骨折整復 【第4回】 鎖骨骨折整復 【第5回】 鎖骨骨折整復 【第6回】 上腕骨外科頸骨折概説と特徴 【第7回】 上腕骨外科頸骨折整復 【第8回】 上腕骨外科頸骨折整復 【第9回】 上腕骨外科頸骨折整復 【第10回】 上腕骨外科頸骨折整復 【第11回】 コーレス骨折概要と特徴 【第12回】 コーレス骨折整復 【第13回】 コーレス骨折整復 【第14回】 コーレス骨折整復 【第15回】 コーレス骨折整復 【第16回】 肩関節脱臼概説と特徴 【第17回】 肩関節脱臼整復 【第18回】 肩関節脱臼整復 【第19回】 肩関節脱臼整復 【第20回】 肩関節脱臼整復 【第21回】 肩鎖関節脱臼概説と特徴 【第22回】 肩鎖関節脱臼整復 【第23回】 肩鎖関節脱臼整復 【第24回】 肩鎖関節脱臼整復 【第25回】 肩鎖関節脱臼整復 【第26回】 肘関節脱臼概説と特徴 【第27回】 肘関節脱臼整復 【第28回】 肘関節脱臼整復 【第29回】 肘関節脱臼整復 【第30回】 肘内障概説と特徴 【第31回】 肘内障整復 【第32回】 肘内障整復 【第33回】 肘内障整復 【第34回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] プリント配布

## 授 業 概 要

<p>[学科名]</p> <p style="text-align: center;">柔道整復師学科学科</p>	<p>[実施年次及び期間]</p> <p style="text-align: center;">3年次</p>
<p>[教育内容]</p> <p style="text-align: center;">実技</p>	<p>[科目名]</p> <p style="text-align: center;">柔整実技VI</p>
<p>[時間及び単位数]</p> <p style="text-align: center;">102時間 3単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p style="text-align: center;">蔵元 秀一 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的・概要]</p> <p>柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。</p>	
<p>[授業内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第35回】 鎖骨骨折固定</li> <li>【第36回】 鎖骨骨折固定</li> <li>【第37回】 外科頸骨折固定</li> <li>【第38回】 外科頸骨折固定</li> <li>【第39回】 コーレス骨折固定</li> <li>【第40回】 コーレス骨折固定</li> <li>【第41回】 肩脱臼固定</li> <li>【第42回】 肩脱臼固定</li> <li>【第43回】 肩鎖関節脱臼固定</li> <li>【第44回】 肩鎖関節脱臼固定</li> <li>【第45回】 肘脱臼固定</li> <li>【第46回】 肘脱臼固定</li> <li>【第47回】 総復習</li> <li>【第48回】 総復習</li> <li>【第49回】 総復習</li> <li>【第50回】 期末試験</li> <li>【第51回】 解答・解説</li> </ul>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編、実技編)</p>

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技Ⅶ
[時間及び単位数] 102時間 3単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第1回】 腱板損傷検査法 【第2回】 腱板損傷検査法 【第3回】 上腕二頭筋長頭腱損傷検査法 【第4回】 上腕二頭筋長頭腱損傷検査法 【第5回】 大腿部肉離れ検査法 【第6回】 大腿部肉離れ検査法 【第7回】 下腿三頭筋損傷検査法 【第8回】 下腿三頭筋損傷検査法 【第9回】 アキレス腱断裂検査法 【第10回】 アキレス腱断裂検査法 【第11回】 足部捻挫検査法 【第12回】 足部捻挫検査法 【第13回】 膝内側側副靭帯損傷検査法 【第14回】 膝内側側副靭帯損傷検査法 【第15回】 膝前十字靭帯損傷検査法 【第16回】 膝前十字靭帯損傷検査法 【第17回】 膝内側半月板損傷検査法 【第18回】 膝内側半月板損傷検査法 【第19回】 膝絆創膏固定 【第20回】 膝絆創膏固定 【第21回】 足関節局所副子固定 【第22回】 足関節局所副子固定 【第23回】 足絆創膏固定 【第24回】 アキレス腱断裂固定 【第25回】 アキレス腱断裂固定 【第26回】 さらし固定厚紙副子含む 肋骨骨折 【第27回】 さらし固定厚紙副子含む 肋骨骨折 【第28回】 ミッテルドルフ三角副子固定 【第29回】 ミッテルドルフ三角副子固定 【第30回】 アルフェンス固定指部 【第31回】 アルフェンス固定指部 【第32回】 下腿骨骨折クラーメル固定 【第33回】 下腿骨骨折クラーメル固定 【第34回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編、実技編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実技	[科目名] 柔整実技Ⅶ
[時間及び単位数] 102時間 3単位	[担当教員] 蔵元 秀一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	
[授業内容] 【第35回】 鎖骨骨折固定 【第36回】 鎖骨骨折固定 【第37回】 外科頸骨折固定 【第38回】 外科頸骨折固定 【第39回】 コーレス骨折固定 【第40回】 コーレス骨折固定 【第41回】 肩脱臼固定 【第42回】 肩脱臼固定 【第43回】 肩鎖関節脱臼固定 【第44回】 肩鎖関節脱臼固定 【第45回】 肘脱臼固定 【第46回】 肘脱臼固定 【第47回】 総復習 【第48回】 総復習 【第49回】 総復習 【第50回】 期末試験 【第51回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編、実技編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実習	[科目名] 臨床実習Ⅲ
[時間及び単位数] 45時間 1単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 付属接骨院での実習 【第3回】 付属接骨院での実習 【第4回】 付属接骨院での実習 【第5回】 付属接骨院での実習 【第6回】 付属接骨院での実習 【第7回】 付属接骨院での実習 【第8回】 付属接骨院での実習 【第9回】 付属接骨院での実習 【第10回】 付属接骨院での実習 【第11回】 付属接骨院での実習 【第12回】 付属接骨院での実習 【第13回】 付属接骨院での実習 【第14回】 付属接骨院での実習 【第15回】 付属接骨院での実習 【第16回】 付属接骨院での実習 【第17回】 付属接骨院での実習 【第18回】 付属接骨院での実習 【第19回】 付属接骨院での実習 【第20回】 付属接骨院での実習 【第21回】 付属接骨院での実習 【第22回】 付属接骨院での実習 【第23回】 期末試験	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に（原則として最終日）に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学（理論編）

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 実習	[科目名] 臨床実習Ⅳ
[時間及び単位数] 45時間 1単位	[担当教員] 金城 聡裕 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。 また、接骨院だけでなく介護施設や病院での働き方を学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明 【第2回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第3回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第4回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第5回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第6回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第7回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第8回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第9回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第10回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第11回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第12回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第13回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第14回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第15回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第16回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第17回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第18回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第19回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第20回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第21回】 介護施設、病院、外部接骨院での実習 【第22回】 期末試験 【第23回】 解答・解説	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が5分の4以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学(理論編)

## 授 業 概 要

[学科名] 柔道整復師学科学科	[実施年次及び期間] 3年次
[教育内容] 演習	[科目名] 総合演習Ⅲ
[時間及び単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 新垣 義一 (実務経験あり)
[授業の目的・概要] 接骨院でよく遭遇する外傷と鑑別法、治療法を学ぶ	
[授業内容] <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明</li> <li>【第2回】 接骨院で行われている実際の治療</li> <li>【第3回】 接骨院で行われている実際の治療</li> <li>【第4回】 接骨院で行われている実際の治療</li> <li>【第5回】 病院のリハビリ室で行われている実際の治療</li> <li>【第6回】 病院のリハビリ室で行われている実際の治療</li> <li>【第7回】 病院のリハビリ室で行われている実際の治療</li> <li>【第8回】 介護施設で行われている機能回復訓練</li> <li>【第9回】 介護施設で行われている機能回復訓練</li> <li>【第10回】 介護施設で行われている機能回復訓練</li> <li>【第11回】 スポーツの現場で行われているトレーナー業務</li> <li>【第12回】 スポーツの現場で行われているトレーナー業務</li> <li>【第13回】 スポーツの現場で行われているトレーナー業務</li> <li>【第14回】 まとめ</li> <li>【第15回】 期末試験</li> </ul>	
[単位認定の方法及び基準] ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・期末試験は授業時間内に(原則として最終日)に実施する。・再試験は授業時間外に実施する。・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。・評価は①試験の成績80%、②出席状況10%、③授業の受講態度等10%を総合的に勘案し判定する。・成績はA: 80~100点 B: 70~79点 C: 60~69点 D: 59点以下とし、C以上を合格とする。	[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 整形外科学